

**2013 年研究大会 10 月 5 日(土)・6 日(日)  
津田塾大学小平キャンパスにて実施  
自由論題報告募集 若手への旅費助成継続**

2013 年の研究大会は、10 月 5 日(土)・6 日(日)に津田塾大学小平キャンパス(東京都小平市)にて実施されます。引き続き、JSSEES との合同大会となり、今回は JSSEES 側の大会開催校が担当します。研究大会の情報に関しては、随時、学会ウェブサイトを通じてご案内いたしますのでご確認ください。

**1. 共通論題テーマ:「多極化世界におけるロシア・東欧地域の人と生活」(仮)**

3 月 9 日に開催された理事会での審議の末、共通論題のテーマが「多極化世界におけるロシア・東欧地域の人と生活」(仮)となった。これは、この 2, 3 年間、1989 年の体制転換 20 年、1991 年のソ連崩壊 20 年、さらに、ポスト共産時代のリーダーとリーダーシップなど、政治・経済のハードな側面に焦点を当ててきたことに鑑み、政治経済の変容を踏まえつつも、文化、社会、生活面をも視野に入れた総合的検討を行う必要があるという議論の結果として、提示されたものである。それを踏まえ、企画委員は、各分野を考慮し、以下の 5 名(敬称略)が選出された。羽場久美子(委員長、青山学院大学・国際政治)、杉浦史和(委員、帝京大学・国際経済)、ヨコタ村上孝之(委員、大阪大学・ロシア文学)、吉岡潤(委員、津田塾大学、大会開催校・ポーランド政治史)、兵頭慎治(委員、防衛研究所・ロシアの安全保障、事務局)。

現段階では、方向性として、例えば次の 3 点ほどが提示できよう。第 1 は、グローバル化による国境の解放、移民・越境と、境界線をめぐる対立、紛争、共存の課題、第 2 は、グローバル化とネットワークの拡大による、文化・社会の多様化、アイデンティティの変容と共生の課題、第 3 は、気候変動や、災害対策、エネルギーの枯渇や共同の試みを、どのように市民生活の安定・発展・繁栄と結びつける形で、再構築するか、という課題である。いずれも、政治・経済とも密接に絡みつつ、それだけでは解決の糸口が見えない、主権・帰属意識、ナショナリズムと移民をめぐる排除と包摂の論理、そこから現れてくる、文化文学の多元的な変容と新たな思想的再構築、等が必要な課題となろう。これ以外の論点も含めて、この間、ロシア・東欧研究で、地道な成果を上げてきている研究に焦点を当てるものを発掘する努力を行う。

以上を踏まえ、共通論題の報告者 2 名は、政治経済安全保障から 1 名、社会文化文学から 1 名、討論者は、報告者に入らなかった分野から 1 名または 2 名、さらにその後のパネル・ディスカッションとして、政治、経済、社会・文化、文学から、各 1 名ずつ、4 名程度を選び、体制転換後 4 半世紀になろうとする、ロシア・東欧の社会思想生活について、議論を深める。それにより、この間 4, 5 年の共通論題の流れを止揚し発展させるような、思想的深さと多元的視野を持った共通論題を提供するものとしたい。

(2013 年研究大会企画委員長: 羽場久美子 青山学院大学)

## 2. 自由論題報告募集(6月30日締め切り)

自由論題報告を希望される会員は、①氏名、②住所、③電話番号、④所属、⑤報告のタイトル、⑥報告要旨(約400字)を6月30日(必着)までに学会事務局へ、学会ウェブサイトのお問い合わせフォームまたはメールでお知らせ下さい。なお、この報告要旨は、理事会での承認及び分科会への割り振りを決定する際の参考にするためのもので、大会当日に配布する予稿集ではありません。

予稿集の提出要領等については、事務局から別途ご案内します。なお、現時点において大会プログラムの詳細は未定ですが、自由論題報告は研究大会2日目(10月6日)の午前中に予定されております。

また、昨年は応募者多数により人数制限を行いました。報告希望者が可能人数を上回った場合には、①同一会員が2年連続で報告するのを避ける、②過去の報告回数の少ない会員を優先する、③当学会における報告として論題が適切かどうかを考慮する、という原則により理事会にて調整させていただく場合があります。

## 3. 若手会員への旅費・宿泊費・懇親会費の助成を継続

自由論題報告を行う若手会員への旅費等の助成は、2010年～2012年度までの3カ年の時限措置として実施し、3年間で11件の利用がありました。本助成制度の効果が認められること、若手研究者奨励基金に残額があることから、当面の間、延長されることとなりました。但し、奨励基金の残額が無くなった場合には、募集を打ち切ることもあり得ますので、希望される方は早めにご応募ください。

5万円を上限として、交通費、宿泊費、懇親会費などが助成の対象となり、飛行機を利用したパック旅行も適用されます。領収書提出による実費の支給となりますが、近距離の場合は運賃検索画面の提示で代用できます。院生会員はもとより、専任・常勤職を持たない若手会員も対象となります。また、過去3年間に助成を受けた方も再応募は可能ですが、2013年～2015年度の間は一回のみとなります。条件は、①助成を受けようとする年度も含めて年会費を納めていること、②他から旅費等の支給を受けていないこと、③助成を受けた後も学会活動を継続する見込みであることです。多くの若手会員の皆様のご利用をお待ちしております。

# 『ロシア・東欧研究』投稿募集 応募締め切りは9月15日

論文、研究ノート、書評の原稿を募集しています。応募締め切りは9月15日、原稿提出期限は11月末日です。研究大会における自由論題報告者のみならず、多くの会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。また、投稿時点において40歳未満の方は、自動的に若手研究者奨励賞(賞状、副賞5万円)の選考対象となります。執筆要領については、学会HPまたは学会誌巻末の「投稿規程・執筆要領」をご覧ください。

また、書評用の書籍は、事務局ではなく、以下の会誌編集委員会宛にご送付いただきますようお願いいたします。ただし、書評として取り上げるかどうかは、編集委員会の判断によります。

問い合わせ・申込み先：ロシア・東欧学会 会誌編集委員会

〒239-8686 横須賀市走水1-10-20 防衛大学校外国語教育室  
角田安正 研究室気付

E-mail : tunoda@nda.ac.jp

# 2012 年度研究大会 4 学会合同大会 同志社大学にて盛大に実施

2012 年度 (第 41 回) の研究大会は、10 月 6 日(土)・7 日(日)に同志社大学今出川校地新町キャンパス (京都市上京区) にて実施されました。研究大会は JSSEES と合同で実施されるとともに、日本ロシア文学会、ロシア史研究会を加えた 4 学会による共同シンポジウムや合同懇親会も行われました。4 年に一度の 4 学会合同大会であることから、当学会だけで 100 名以上の会員が参加し、盛況のうちに終了しました。

本研究大会開催にあたっては、大会開催校の月村太郎理事に多大なるご尽力をいただくとともに、同志社大学から大会費用 7 万円の補助を受けました。また、4 学会合同大会の企画委員として、当学会から兵頭理事が企画・運営に関わりました。以下、共通論題および自由論題の概要をお伝えします。

## 1. 共通論題

2012 年度のロシア・東欧学会の共通論題は「ポスト共産時代のリーダーとリーダーシップ—東欧と中央アジアで考える—」というタイトルで開催された。またこの企画は本学会と、JSSEES、ロシア史研究会、ロシア文学会との 4 学会共同シンポジウム「リーダーとリーダーシップを作るもの」との連携を意識した企画であった。

藤嶋亮氏の『『プレーヤーとしての大統領』トライアン・バセスク—比較の視座からみたルーマニアの半大統領制—』という報告では、2004 年から大統領職にあるバセスクの、中東欧では例外的な大統領によるリーダーシップ志向の事例を取り上げ、それが憲法規定の曖昧さ、大統領の個人的人気、大統領と与党との結合という諸要因の組み合わせによって可能になっているという分析を行った。

他方、湯浅剛氏は、「中央アジア諸国における統治とリーダーシップ」という報告で、従来のクラン政治を重視する分析から離れて、ある程度公式政治も加味したリーダーシップ分析を行おうとするものであった。「事件を作る」リーダーと「事件づく」リーダーという概念を用いて中央アジアのリーダーシップの特徴を説明し、また統治機関や与党を大統領個人のための組織として利用する「権力的人格化」という現象が起きていることを指摘した上で、それでもなお、西側の規範が一定範囲で受容されていることにも注目し、それを「競争的権威主義」の定着と捉えた。

討論者の小森田秋夫氏と上垣彰氏からは、ルーマニアの事例での権力と政策の関係、バセスクのプロフィール、両大戦間期との連続性などについて、中央アジアの事例については「競争的権威主義」という概念の位置づけや外圧のとらえ方などについてのコメントと質問が出され、フロアーからもいくつかのコメントと質問が出された。

いずれの報告も比較政治学という方法を強く意識する報告であったが、フロアーからの質問のいくつかは現地での「皮膚感覚」を重視する「地域研究」からの質問で、あらためてこの両者の対話の重要性と難しさを企画者として実感した。

(司会：林忠行 京都女子大学)

## 2. 自由論題

### (1) 分科会 1

分科会 1 では言語、歴史、文学に関する四つの報告がなされた。

第 1 報告の『『北方領土』における日本語教育—その教材開発と実践—』はロシア語教育と日本語教育の専門家 (北岡千夏 [大阪大学]、副島健治 [富山大学]、鈴木寛子 [東北大学]) による共同報告である。「ビザなし交流」の一環として、ロシア人島民向けに開講されている日本語講座の教材作成に関連し、北方領土における日本

語教育の実情、教材開発の経緯、教材作成に際しての配慮、今後の問題点などが詳細に報告された。討論者（黒岩幸子 [岩手県立大学]）からは、地域的な異言語教育の問題と国家的な言語政策にかかわる問題の側面から質問がなされた。

第2報告、齋藤宏文 [東京工業大学] の「独ソ戦期におけるリュセンコと農業生物学—ロシア科学アカデミー文書館での史料調査から—」はリュセンコの指導の下に戦時期に実施された農業提案の内容とその評価、更に独ソ戦期における農業生物学側の実情について、調査資料をもとに報告があり、「リュセンコの科学者から《政治的人間》へのメンタリティー変質の根が戦時期にある」という指摘があった。討論者（藤本和貴夫 [大阪経済法科大学]）からは歴史的背景からの補足と質問がなされた。

第3報告、古川哲 [東京外国語大学] の「プラトノフ『疑惑を抱いたマカール』における全体と個人の対比について」は先行研究者スミスの論文をもとに、風刺的作品に描かれた個人と社会との関係を視点と文彩の側面から考察を加え、人間の身体に関する描写、特に個人に関する暗喩についての検討がなされた。討論者（ヨコタ村上孝之 [大阪大学]）からはスミス論文との整合性などいくつかの疑問点や真摯な提言が示された。

第4報告、木村崇 [京都大学] の「19世紀初頭におけるロシア・ナショナリズムのなりたち—『ボロジノ戦』の文学的受容をてがかりに—」はボロジノ戦200年にあわせて、「ロシア・ナショナリズム」の萌芽期に焦点をあて、プーシキン、レールモントフ、トルストイの文学テキストの分析を通して、貴族ナショナリズムから民衆ナショナリズムへの転成プロセスを論じた報告である。討論者（安藤厚 [北海道大学]）からはボロジノ戦に対するプーシキンとレールモントフの詩を区別するものとして、1830年のポーランドの反乱に対する両者の見方の相違を指摘した点が特筆に値するというコメントがあった。

時宜に合った関心の高いテーマということもあり、全体として参加者が多く集まり、フロアーからは有益な意見が出され、実りある分科会であった。

(座長：浅岡宣彦 大阪市立大学)

## (2) 分科会2

分科会2では、3人の若手研究者が各々斬新なテーマについて報告を行い、的確な討論と活発な質疑が加わって、極めて有意義な分科会となった。

大西富士夫 (海洋政策研究財団) 報告「バレンツ・ユーロ北極評議会(BEAC)をめぐる政治力学—ノルウェー=ロシア関係を中心に—」は、BEACをめぐる政治力学をノルウェー=ロシア関係から考察し、ノルウェーがリーダーシップを発揮し、ロシアがこれに応じるという基本構図が形成されてきたこと、近年の北極海への両国の関心の高まりから、BEAC推進の構図が変容しつつあることを明らかにした。北極海におけるバレンツ地域的重要性について、人口、経済発展、環境保護等の側面から討論および質疑が行われた。

日野文 (ロンドン大学大学院) 会員は報告「ユーゴの文脈化：知的議論と社会主義ユーゴスラヴィアの主観的意味の構築」において、カルドーの「新戦争論」はユーゴ紛争を地域研究の枠を超えたより広い文脈の中で再定義することで国際関係論の発展に寄与したと評価しつつも、一見普遍的なコスモポリタニズムを提唱しながら実際にはバルカニズム的言説を再生産しており、根本的な認識論においてはエスノセントリックな視点を内包していると指摘した。バルカニズムの復活とは、認識論的ヒエラルキーの強化であり、それに基づく西欧のアイデンティティの再定義を意味するからである。これに対し、バルカニズム的発想の背景にある西欧メンタリティーの理解の重要性などが指摘された。

小山雅徳 (同志社大学大学院) 報告「コソヴォ・アルバニア人社会における政治力学：UÇKを中心に」は、従来アルバニア人とセルビア人の二項対立的図式の下で捉えられてきたコソヴォ問題について、武装闘争の中心となったコソヴォ解放軍の成立と紛争後の変容過程に主として焦点を当てながら、アルバニア人社会内部における諸勢力間の政治的緊張関係とダイナミズムを明らかにするものであった。同報告に対し、参照する先行研究の言語の問題や諸勢力間の分断の要因を説明する必要性などが指摘された。

(座長：六鹿茂夫 静岡県立大学)

### (3) 分科会 3

分科会 3 では、ロシアの政治、社会、経済問題といった様々な分野の 4 つの報告が行われ、いずれも先行研究を丹念に読み込み、それを実証研究へと展開する内容の深いものであった。

溝川修平 (神奈川大学/キャノングローバル戦略研究所) 報告「ロシア連邦の憲法制定過程再考—憲法協議会を中心に—」は、1993 年 12 月に成立したロシア憲法の制定過程を再考している。特に、これまで十分に実証研究が行われてこなかった憲法協議会の役割に焦点を当てている。

宮川真一 (創価女子短期大学/創価大学通信教育部) 報告「現代ロシアの「国民正教」体制形成過程をめぐる—国際社会学的考察—」は、現代ロシアにおける「国民正教」体制を志向する政策・活動の形成過程を明らかにするとともに、その過程で再構築されてきたナショナル・アイデンティティの内実について国際社会学の視座から解明している。

長谷直哉 (相山女学園大学) 報告「ロシアのアジア太平洋諸国向けガス輸出政策—露政府とガスプロムの関係を中心に—」は、ロシア政府とガスプロムの関係を中心に、その政策決定過程を分析している。特に、事例として、国益志向が強いと言われるアジア太平洋地域諸国向けガス輸出政策を提示している。

雲和広 (一橋大学) 報告「ロシアの死亡動態再考：システムティックサーベイ」は、ロシアの死亡率の決定要因を先行研究から分析している。死亡を社会経済要因のみで説明することは不可能であるために、報告者は医学文献にあたることでその実像に迫っている。

本分科会は、参加者が多く、立ち見みも出るほど盛況であった。討論者との議論はもちろんのことであるが、フロアからの質問、意見が数多く出され、非常に生産的な討論が多くなされ、報告者の今後のさらなる研究の飛躍を感じさせるものであった。

(座長：五十嵐徳子 天理大学)

### 3. 4 学会共同シンポジウム

「リーダーとリーダーシップ作るもの」をテーマとして、4 学会からそれぞれの代表者が報告を行い、望月哲男理事 (北海道大学) の司会の下、全体討議において活発な議論が行われました。当学会からは、永綱憲悟会員 (亜細亜大学) が、『ソ連人としてのプーチン—個性とリーダーシップ』と題して、現代ロシア政治の観点から報告を行いました。今回はより具体的なテーマ設定により議論を行いました。多くの参加者から有益であったと好評でした。

(4 学会合同大会企画委員：兵頭慎治 防衛研究所)

## 第3回研究奨励賞 立石洋子会員が受賞

第 3 回目の研究奨励賞が決まりました。まず、学会誌に掲載された 40 歳未満 (投稿時点) の会員による論文のうち、査読評価の高いものなど、会誌編集委員長が候補論文を選定しました。その後、下斗米伸夫理事 (法政大学) を委員長とする 5 名の理事から成る選考委員による最終選考が厳正に行われ、理事会の承認を経て、立石洋子会員 (北海道大学スラブ研究センター非常勤研究員) の受賞が決定しました。

総会において下斗米選考委員長より受賞結果が公表されるとともに、ロシア留学のため前回の授賞式に参加できなかった第 2 回受賞者である西山美久会員とともに、上野代表理事より賞状および副賞 (5 万円) が授与されました。研究奨励賞の導入により、若手研究者による投稿論文の増加、論文の質的向上が期待されています。

## 受賞者の略歴

立石洋子（たていし ようこ）

現職：北海道大学スラブ研究センター非常勤研究員

学歴：東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了

主な研究業績：

『国民統合と歴史学—スターリン期ソ連における「国民史」論争—』 学術出版会、2011年。

Writing about Heroes in the “History of the USSR”: The Interpretation of Individuals in History during the Stalin Period, Japanese Society for Slavic and East European Studies, no. 32, 2012.

「1920年代から30年代初頭のソ連におけるマルクス主義歴史家の論争—非ロシア諸民族史を中心に—」『ロシア・東欧研究』第40号、2012年。

### 研究奨励賞選考報告

理事会の委嘱を受けて5委員（家本博一、六鹿茂夫、斉藤元秀、溝端佐登史、委員長：下斗米伸夫）による慎重な審査を行った。その結果、1920-30年代当初のマルクス主義歴史家による非民族民族史をあつかった立石洋子氏の論文『1920年代から30年代初頭のソ連におけるマルクス主義歴史家の論争—非ロシア諸民族史を中心に』を今年の研究奨励賞とすることに決定した。

立石氏の論文は、マルクス主義等ソ連期歴史家の「非ロシア民族史の描写を中心」として「ソ連初期とその後の時代の議論の関連」を明らかにするという目的の第一歩として「1920年代から1930年代前半における」議論を整理し、それぞれの議論の特徴と基本性格を明らかにすることによって、「1920年代末に始まった『文化革命』」を再検討するものである。

この論文は研究の空白を埋めるものであるとの高い評価があった。他方でマルクス主義歴史家、非マルクス主義歴史家、民族地域の歴史家といった相関が不明確であること、ソ連崩壊の時点からそれら共和国史の営為がどういった現在の意味を持っているのかといった、全体の位置づけをめくりやや不満感も指摘された。資料が主としてソ連期のものであり、現代利用可能なアルヒーフや聞き取りによる再検討がほしいとの指摘もあった。それもこの論文が、スターリン民族形成史研究の新しい頁となったことに由来する望蜀のコメントである。

研究奨励賞選考委員長 下斗米伸夫

### 立石会員による受賞の言葉

このたびは研究奨励賞をいただき、まことにありがとうございます。これまで研究を続けることができたのは、いつもご指導いただいている先生方や先輩方のおかげです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。近年のソ連史研究は視点や方法が多様化し続けており、新しい研究動向を追いかけるだけで精一杯になることも多々あります。その一方で、私たちの先生の世代の研究者が当たり前のものとして共有していた知識が欠けていることも多く、新たな研究を取り入れるだけでなく、これまで蓄積されてきた知識を身につけていくことの重要性も感じています。この二つの課題を両立することは簡単ではないと思いますが、どちらかに偏ることのないように今後も地道に努力を続けたいと考えております。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。

# 最近の理事会・総会の議事録より

## 1. 理事選挙当選者会合

日時：2012 年 10 月 6 日（土）18:30～19:15 場所：同志社大学溪水館 1 階会議室

理事選挙の当選者会合が開かれ、7 月 6 日に実施された理事選出選挙で一定以上得票された方（上位 21～50 位の 30 名）を対象として、専門分野、性別、地域、年代、学会活動などを総合的に考慮して、以下の通り、20 名の追加の理事および 2 名の会計監事が選出された。

（1）当選者会合にて選出された理事（20 名、五十音順、敬称略）

安達祐子（上智大学）、家本博一（名古屋学院大学）、岩崎一郎（一橋大学）、大串敦（大阪経済法科大学）、大中真（桜美林大学）、小澤治子（新潟国際情報大学）、小森田秋夫（神奈川大学）、柴宜弘（東京大学）、志摩園子（昭和女子大学）、杉浦史和（帝京大学）、月村太郎（同志社大学）、角田安正（防衛大学校）、富山栄子（事業創造大学院大学）、石郷岡建（日本大学）、浜由樹子（津田塾大学）、林忠行（京都女子大学）、六鹿茂夫（静岡県立大学）、湯浅剛（防衛研究所）、ヨコタ村上孝之（大阪大学）、吉井昌彦（神戸大学）

（2）当選者会合にて選出された会計監事（2 名、五十音順、敬称略）

宇多文雄（元上智大学）、香川敏幸（元慶應義塾大学）

## 2. 2012 年度総会 1

日時：2012 年 10 月 7 日（日）11:30～12:00 場所：同志社大学臨光館 R201 教室

（1）予算・決算の承認

2011 年度決算に関し、兵頭事務局長（防衛研究所）より、当初予算に比べて大幅な支出減になったことが報告され、了承された。2011 年度会計監査に関し、岩田会計監事より、2011 年度の会計業務および財産状況を厳正に監査した結果、いずれも問題ない旨報告された。

2012 年度予算案に関し、兵頭事務局長より、2011 年度予算と総額が同じであることが説明され、承認された。

（2）会誌編集委員会

吉井編集委員長（神戸大学）より、学会誌『ロシア・東欧研究』第 40 号（2011 年版）の刊行および第 41 号（2012 年版）の投稿募集状況が報告された。

（3）2013 年研究大会

兵頭事務局長より、JSSEES との合同大会が継続され、JSSEES 側の大会開催校である津田塾大学（東京都小平市）で実施する旨報告された。

（4）研究奨励賞

下斗米選考委員長（法政大学）より、選考委員会の審査結果として、立石洋子会員に第 3 回研究奨励賞を授与することが報告された。

上野代表理事より、第 2 回受賞者の西山美久会員と第 3 回受賞者の立石洋子会員に賞状および副賞（5 万円）が授与されるとともに、二人の受賞者より挨拶があった。

（5）新理事の承認

志摩選挙管理委員長（昭和女子大学）より、理事選挙および当選者会合において選出された新理事が紹介され、新理事が承認された。

### 3. 2012 年度第 2 回理事会

日時：2012 年 10 月 7 日（日）12:00～13:30 場所：同志社大学臨光館 R203 教室

(1) 会誌編集委員会報告（吉井編集委員長、神戸大学）

学会誌第 40 号(2011 年版)の刊行が報告され、第 41 号の編集状況が説明された。

(2) 事務局報告（兵頭事務局長、防衛研究所）

2012 年度の間決算が報告され、入会希望者（2 名）、退会希望者（5 名）が了承された。

(3) 2013 年研究大会

兵頭事務局長より、JSSEES との合同大会が継続され、JSSEES 側の大会開催校である津田塾大学（東京都小平市）が 10 月上旬に実施する旨報告された。

(4) 新執行部の選任

上野俊彦代表理事、溝端佐登史副代表理事、兵頭慎治事務局長の再任が承認された。

(5) 役員を選任

理事に選出された石郷岡建（日本大学）会員から辞退の申し出があり、新たに蓮見雄（立正大学）会員が理事に選任された。また、JCREES 学会担当に上野俊彦（上智大学）理事が、会誌編集委員長に角田安正（防衛大学校）理事が選任された。その他の委員・役員については、次期理事会にて選任されることとなった。

(6) その他

2015 年に幕張で実施される ICCEES 世界大会に関して、情報提供と意見交換が行われた。

### 4. 2012 年度総会 2

日時：2012 年 10 月 7 日（日）13:30～13:45 場所：同志社大学臨光館 R201 教室

上野俊彦代表理事、溝端佐登史副代表理事、兵頭慎治事務局長の再任が承認された。

### 5. 2012 年度第 3 回理事会

日時：2013 年 3 月 9 日（土）14:00～16:30 場所：上智大学 2-510 教室

(1) 各種担当・委員の選任（任期 2012 年 10 月～2015 年 10 月）

日本学術会議の学会代表および地域研究会連絡協議会(JCASA)担当として羽場久美子理事（青山学院大学）が、国際交流担当として松里公孝理事（北海道大学）の留任が承認された。広報委員長として、富山栄子理事（事業創造大学院大学）の留任が承認され、引き続き、広報委員を検討していくことが確認された。

(2) 会誌編集委員会報告（角田編集委員長、防衛大学校）

新しい編集委員として、角田安正理事（防衛大学校、委員長）、吉井昌彦理事（神戸大学、副委員長）、五十嵐徳子理事（天理大学）、大串敦理事（慶應義塾大学）、雲和広理事（一橋大学）、杉浦史和理事（帝京大学）、中村唯史会員（山形大学）、前田弘毅会員（首都大学東京）、黛秋津会員（東京大学）が選任された。会誌第 41 号(2012 年版)の編集状況が報告された。

研究奨励賞の候補論文が了承され、研究奨励賞の選考委員として、伊東孝之理事（委員長、早稲田大学）、上垣彰理事（西南学院大学）、柴宜弘理事（東京大学）、下斗米伸夫理事（法政大学）、ヨコタ村上孝之理事（大阪大学）が選任された。

(3) 事務局報告（兵頭事務局長、防衛研究所）

2012 年度研究大会の経費内訳が報告された。2012 年度の間決算が報告された。入会希望者（4 名）、退会希望者（1 名）が了承され、3 年年会費未納により 2012 年度末にて退会扱いとなる会員(11 名)が報告された。

若手研究者奨励基金の執行状況が報告され、奨励基金導入の効果が認められること、奨励基金に残額があることから、当面の間、継続することが了承された。

個人情報保護ポリシーの導入が承認され、本ポリシーを会員に周知した上で、2013 年度に会員名簿を発行することが報告された。

## (4) 2013 年度研究大会

10 月 5 日 (土)・6 日 (日) に、JSSEES 側の大会開催校である津田塾大学 (東京都小平市) で開催されることが確認された。共通論題を研究報告とパネル・ディスカッションの二部形式とし、「多極化世界におけるロシア・東欧地域の人と生活 (仮)」をテーマとすることが了承された。

企画委員として、羽場久美子理事 (委員長、青山学院大学)、杉浦史和理事 (帝京大学)、ヨコタ村上孝之理事 (大阪大学)、吉岡潤会員 (津田塾大学、大会開催校)、兵頭慎治理事 (防衛研究所、事務局) が選任され、報告者の人選を含む企画案を企画委員会に一任することが了承された。

## (5) 2014 年度研究大会

西日本地区において大会開催校を検討していくことが確認された。

## (6) ICCEES 世界大会

JCREES 事務局長である宇山理事より、2013 年 2 月 10 日に開催された JCREES 幹事会について報告があった。ICCEES 世界大会で報告を行う若手会員に対して、参加料などを支援する方向で検討していくことが確認された。

## 新入会員 (敬称略、申し込み順)

氏名	所属	専門分野	推薦者 (署名順)	
飯島康夫	聖学院大学	近代ロシア城塞集落史・都市史	宇多文雄	角田安正
門間卓也	東京大学大学院	大戦間期クロアチア政治	柴宜弘	黛秋津
高瀬秀一	日本国際問題研究所	現代ロシア政治経済・露中関係	兵頭長雄	松井啓
長友謙治	農林水産政策研究所	現代ロシア農業・農政	山村理人	田畑伸一郎
Goto Ksenia	筑波大学	言語学・ロシア語学	白山利信	堤正典
長谷川雄之	東北大学大学院	現代ロシア法・ロシア政治制度史	上野俊彦	兵頭慎治
矢口啓朗	東北大学大学院	ロシア帝国史	上野俊彦	兵頭慎治
黒澤啓	共立女子大学	国際公共政策、平和構築	柴宜弘	上野俊彦
小林幹和	神戸大学大学院	ロシアを中心とした国際法	上野俊彦	兵頭慎治
藤嶋亮	神奈川大学	南東欧の政治・政治史	上垣彰	林忠行
松浦光吉	神戸大学大学院	中東欧経済	吉井昌彦	溝端佐登史
清水翔太	同志社大学大学院	現代ロシア外交	兵頭慎治	月村太郎
伊藤嘉彦	拓殖大学大学院	ドイツ政治・安全保障政策	名越健郎	藤巻裕之
生田泰浩	慶應義塾大学大学院	現代ウクライナ政治	廣瀬陽子	香川敏幸

# 地域研究学会連絡協議会(JCASA)ニュースレターより

## ロシア・東欧学会 2012 年活動報告

### 1. 4 学会合同大会の実施

2012 年度(第 41 回)の研究大会は、10 月 6 日(土)・7 日(日)に同志社大学今出川校地新町キャンパス(京都市上京区)にて実施された。JSSEES との合同大会を継続するとともに、日本ロシア文学会、ロシア史研究会を加えた 4 学会による共同シンポジウムや合同懇親会が企画された。4 学会合同大会は、2008 年にロシア・東欧学会が名古屋で主催して以来、2 回目である。ロシア史研究会を除く 3 学会が同一会場にて独自大会を開催したことから、大会プログラムは変則的となり、独自大会も一部短縮して実施された。4 年に一度の 4 学会合同大会であること、4 学会の関係者が他学会のプログラムにも自由に参加できたことから、例年より参加者が増大するとともに、4 学会共同シンポジウムや合同懇親会も大変盛況であった。この 4 学会合同大会を通じて、関連するスラブ学会の連携強化を図ることができた。

### 2. 2012 年度(第 41 回)研究大会の開催

4 学会共同シンポジウムの「リーダーとリーダーシップを作るもの」というテーマを受けて、独自大会の共通論題は「ポスト共産時代のリーダーとリーダーシップ—東欧と中央アジアで考える—」というテーマが設定され、4 学会合同大会と独自大会の間で、企画内容の有機的な連携が図られた。自由論題では、分科会 1 で言語、歴史、文学に関する 4 報告が、分科会 2 では北欧、東欧に関する 3 報告が、分科会 3 では現代ロシアに焦点を当てた 4 報告が行われた。学際的な地域研究学会ならではの多彩なテーマが取り上げられ、討論者・フロアーとの間で活発な質疑応答が行われた。今年は、若手研究者による報告申込みが相次いだため、件数を調整する必要が生じた。

### 3. 新理事の選出と執行部の留任

総会において、新しい理事が承認された。当学会では、半数の理事を選挙で選出し、選挙で一定の得票を得た会員を対象として、専門分野や年代、性別、地域などを総合的に考慮して、選挙の当選者が残り半数の理事を選挙する方式を採用している。今回、理事の 4 分の 1 が入れ替わることで世代交代が進み、学会運営に新風が吹き込むことが期待される。他方、上野俊彦代表理事(上智大学)、溝端佐登史(京都大学)、兵頭慎治事務局長(防衛研究所)の執行部は留任し、実務面での継続性が図られることとなった。

### 4. 若手研究者に対する支援事業

2010 年から導入した若手研究者に対する支援制度は、年を追うごとに定着しつつある。まず、学会誌に掲載された 40 歳未満の会員による論文のうち、査読評価の高いものなどを対象として、5 名の理事が研究奨励賞の選考を行っている。総会では、第 3 回目の受賞者が発表され、賞状と副賞(5 万円)が授与された。研究奨励賞を導入するようになり、若手研究者による学会誌への投稿論文が増加するとともに、論文の質的向上が期待されている。さらに、研究大会で報告する院生会員に対して、旅費・宿泊費・懇親会費の支給を行っており、今回も若手研究者がこの制度を利用して優れた研究報告を行った。財政面に余裕があるため、若手研究者に対する支援事業は今後も継続していきたいと考えている。

(ロシア・東欧学会事務局長 兵頭慎治)

※地域研究学会連絡協議会(Japanese Council of Area Studies Associations)は、地域研究の発展に寄与し、相互交流や必要な提言を行うことを目的として、本学会を含む関連する 20 の地域研究学会が加盟しています。

# 個人情報保護ポリシーの策定

昨今の個人情報保護の高まりを受けて、本学会でも、以下のような個人情報保護ポリシーを策定しました。本ポリシーの内容を明示し、会員の皆様のご理解を得た上で、本年度中に会員名簿を発行します。本ポリシーの内容に照らしまして、会員名簿の取り扱いには十分ご注意くださいようお願い申し上げます。また、本学会のウェブサイトには、本学会以外から寄せられる様々な情報が掲載されておりますが、それらの情報の内容に関して本学会は責任を負いません。ご自身の判断によるご利用をお願いいたします。

## ロシア・東欧学会 個人情報保護ポリシー

2013年3月9日 理事会承認

### 1. 個人情報保護に関する法令遵守

本学会は、個人情報の保護に関する法令等を遵守します。

### 2. 個人情報の取得

本学会は、会則等で定められた活動目的に従い、必要な範囲で個人情報を取得します。その場合、個人情報の利用目的を明示するとともに、本人の同意に基づいて、適正な方法で行います。

### 3. 個人情報の利用および第三者への開示、提供

本学会は、取得した個人情報を活動目的の範囲内で利用することとし、第三者への開示、提供は行いません。ただし、次のいずれかの場合は、この限りではありません。

- (1) 本人の同意があるとき
- (2) 法令に基づく場合および公的機関から合法的な要請があった場合
- (3) 総会や理事会で承認された事業を達成するために正当な理由があるとき
- (4) 本学会の活動目的の範囲内において、個人情報の取り扱いの全部または一部を外部事業者へ委託する場合

### 4. 個人情報の管理

本学会は、取得した個人情報の漏洩、滅失、破壊および改ざんなどを防ぐために、必要かつ適切な管理を行います。また、個人情報の取り扱いの全部または一部を外部事業者へ委託する場合も、本個人情報保護ポリシーの順守を外部事業者に求めます。

### 5. 個人情報の開示および訂正、削除

本学会は、個人情報の提供者から、自己に関する個人情報の開示請求、あるいは訂正、削除等の申し出があった場合には、適切に対応します。

### 6. 会員名簿の取扱い

会員名簿の使用目的は本学会の活動目的に限るものとし、第三者への貸与および譲渡を禁じます。また、会員名簿を処分する場合は、個人情報の保護に留意して適切に行うよう求めます。

### 7. ウェブサイトの取り扱い

本学会が設けるウェブサイトの利用は、利用者の責任において行われるものとします。

### 8. 個人情報保護ポリシーの更新

法令等の変更に対応するため、またはその他の適切な理由により、本学会は理事会の決定により個人情報保護ポリシーを更新することがあります。本学会の取得した個人情報に対しては、常に最新の個人情報保護ポリシーが適用されます。

### 9. 個人情報の取り扱いに関する問い合わせ先

本学会における個人情報の取り扱いに関する問い合わせは、学会事務局が受け付けます。

## 事務局からのお知らせ

### 1. 2013 年度年会費納入のお願い

2013年度年会費のご案内を送付させていただきました。お早目の納入をお願い申し上げます。送付しました払込取扱票を使用して郵便局でお支払いの場合、払込手数料は学会負担となります。受領証は、払込を証明するものですので、大切に保管してください。ゆうちょ銀行以外の他行（海外を含む）からご送金いただくことも可能です。その場合は、送金口座番号が異なり、手数料が必要となります。前年度までの年会費未納の方は、誠に恐縮ですが、合わせてお支払い下さい。年会費の納入に関して、何かご不明の点がございましたら、事務局までメールにてお問い合わせ下さい。

### 2. 会員名簿の作成について

7月末時点の登録情報に基づき、本年秋に会員名簿を発行します。住所、電話番号、メール・アドレス、所属、会員種別などの変更、名簿への非掲載項目（郵便番号、住所、電話番号、メール・アドレス）の追加などがございましたら、ウェブサイトやメールなどで事務局までお知らせください。

### 3. 情報発信の強化

院生会員間のコミュニケーションや研究情報の共有化を図るため、院生会員専用のメーリング・リストを作成しております。学会からのお知らせ、研究会や奨学金、採用情報などを発信しております。まだ登録が終わっていない院生会員の方は、登録をお願いします。[http://groups.yahoo.co.jp/group/jarees\\_insei/](http://groups.yahoo.co.jp/group/jarees_insei/)

ホームページが新設されて間もなく2年目となり、アクセスも4万件に達しつつあります。今後も、情報発信の強化を目指しますので、引き続き、ご愛用いただきますようお願い申し上げます。

学会誌『ロシア・東欧学会』が掲載されているJ-STAGEは、既に国内外の著名データベースと連携を行っておりますが、今般、国立国会図書館（NDL）サーチ／東日本大震災アーカイブとの連携を開始しました。これにより、電子ジャーナルの閲覧性がさらに向上します。

### 4. 事務局への問い合わせ先変更

郵便物の送付先を、上智大学から防衛研究所に変更しました。また、会員登録情報の変更や会費の納入状況のお問い合わせなどは、学会ウェブサイトの「お問い合わせフォーム」またはメールにてお願いいたします。

#### 《編集後記》

事務局長を留任することとなりました。引き続き、よろしく願い申し上げます。読みやすさと編集効率を考慮して、本号よりニュースレターのレイアウトを変更しました。（兵頭）

ロシア・東欧学会ニュースレター 第26号（2013年5月発行）

《発行》ロシア・東欧学会事務局 事務局長 兵頭慎治 広報委員 岡田美保

郵便物送付先：〒153-8648 東京都目黒区中目黒 2-2-1 防衛研究所 兵頭慎治研究室気付  
E-mail : jarees\_office@yahoo.co.jp HP : <http://www.gakkai.ac/roto/>

ゆうちょ銀行（加入者名：ロシア・東欧学会）：

郵便局での払込：00150-8-177731 他行からの送金：019 店 当座預金 0177731